

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立中央中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>全国学力調査では東京都の平均正答率が61%に対し、本校の平均正答率は58%であった。</p> <p>「読むこと」の分野の東京都の平均正答率が50%に対し、本校の平均正答率が44%であった。</p>	<p>○事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題があるため、単元の中で「書く」活動に取り組む際は、対象が異なる要約文を書いている生徒同士を交流させるなどの工夫」を設ける。</p> <p>○「読むこと」の能力を培うために、授業では文章を読み、根拠を示しながら自分の考えをもつ時間を設ける。</p>
数学	<p>全国学力・学習状況調査の結果、以下のとおりであった。</p> <p>○「数と式」に関する事項では△8.7ポイントであった。</p> <p>○「図形」に関する事項では△6.3ポイントであった。</p> <p>○「関数」に関する事項では△5.5ポイントであった。</p> <p>○「知識」が△7.8ポイント、「思考」が△6.0ポイント、「態度」が△4.4ポイントであった。</p>	<p>○習熟度別少人数授業により、生徒の習熟度に応じた学習活動を行うことで、個別最適な学びを実現する。</p> <p>○週1回小テストを実施し、生徒が前の週に学んだことが、どの程度身に付いたか振り返る場面を設定するとともに、理解が不十分な点について補足し、80%以上の達成率を目指す。</p> <p>○単元の始まりの授業において、指導計画と評価規準を配付し、生徒が単元のまとまりを意識して学習に臨めるようにする。単元の終わりに行うテストの達成率が、基礎・標準コースでは50%以上、応用コースでは80%以上を目標とする。</p>
英語	<p>7月実施の実力完成シートの本校平均点は47.1（標準平均点48.5）だった。比較的短い英文（資料、中文）の読み取りの本校平均点は、全受験者と比べてもポイントに差がない。しかし、比較的長い英文（対話文や物語文）の読み取りは5～7ポイント低い。また、英作文も6ポイント低い。</p> <p>長い英文を粘り強く読んで問題にを解いたり、自分が知っている語句や表現を用いて英文を書く力を伸ばす必要がある。</p>	<p>授業最初の帯活動で長文読解を継続的に行い、初見の長文を読むことに慣れる。英作文については、課題に対し3つの英文で書く活動を週1回程度取り入れる。</p> <p>長文読解、英作文ともに、11月の実力完成シートでの全受験者標準との差を5ポイント以内にする。</p>
理科	<p>単元ごとに行われるテストの平均達成率は65%で、特に思考を伴う問題の正答率が45%、計算に関わる問題の正答率が40%と課題がある。ここから、基本的な科学的用語に関する知識は身に付いているが、思考力・表現力の育成につながっていない面があることが分かった。</p>	<p>思考力・表現力を育成するために、簡易的なレポートを作成する機会を単元に最低5回は行う。その際にシンキングツールを活用して情報処理がに課題がある生徒に対して考察の手順を整理して示すことで、7割以上の生徒がB評価を付けられるよう指導する。</p>